

一般質問通告者一覧表（12月15日）

令和4年第4回東広島市議会定例会

発言順	通告者	質問要旨			答弁者	発言時間			
		項目	細目	詳細					
1	牛尾 容子	1	学生連携について	(1) 学生のまち推進条例について 本市は市内に4大学を有し、大学連携、学生との地域交流にも力を入れている。大学との連携は積極的に行われ、様々な部署が多くの施策に取り組んでいるが、その方針を明文化し、学生自身や市民に向けての発信はあまりなされていないのではないか。学生が地域課題の解決と一緒に取り組み、それが単位やアルバイトなどに繋がり、積極的に関われる様、今ある施策をまとめ、不足しているところを掘り起こし、学園都市づくり交流会議やその他多くの学生と共にそれらを明文化した条例を作成することを提案したい。現在行われている本市の学園都市としての地域特性、施策を生かした地域プロモーションの一環として市内外に一層のアピールとなり、学生とより連携した魅力あるまちづくり、学生の市内定住、本市への愛着度の向上、関係人口の増加、多世代交流等の効果が期待できるのではないかと考える。	市副市長 長 教育長 担当 部局長	35分			
				ア			本市の学生連携についてはどのような現状と認識されているか。大学組織との連携だけではなく、学生や市民の意識はどの様に認識されているか。		
				イ			学生連携を行っていく上でどこが充足していて、どの部分が足りないとお考えか。		
				ウ			それをまとめ、明文化し、皆の方向性を明確にするために学生のまち条例等を制定してはと考えるがどのようにお考えか。		
		2	フレイル対策について	(1) ヒアリングフレイルについて 本市は広島国際大学と連携してフレイル対策を積極的に行っている。東広島の独自の視点として、睡眠を取り入れているが、フレイル対策先進の豊島区では全国で初めて「ヒアリングフレイル」に注目し、医師会と連携してヒアリングフレイル対策に積極的に取り組んでいる。					
				ア			本市におけるフレイル対策の現状をどのようにお考えか。		
				イ			本市はフレイル予防の五本柱として、運動、社会参加、栄養、口腔ケアに加え、独自に睡眠を加えているが、難聴などのヒアリングフレイルについてはどのように対策しておられるのか、また、今後どのように取り組もうとお考えか。		
				ウ			現在難聴の対話支援機器を購入されているがその使用状況と効果をどのようにお考えか。		
		3	認知症と共に暮らせる社会を目指して	(1) 認知症当事者の意見を取り入れるために 認知症の有病率は年齢とともに急速に高まることが知られており、現在、65歳以上の約16%が認知症であると推計されているが、内閣府によると80歳代の後半の男性の35%、女性の44%、95歳を過ぎると男性51%、女性84%が認知症と言われている。わが国は世界一の長寿国であり、認知症と共に生きる高齢者の人口は今後も増加し、2025年には高齢者の5人に1人、国民の17人に1人が認知症になるものと予測されている。 非常に身近な問題であるにも関わらず、認知症に対する一般的なイメージが、「何もできなくなる。」「認知症だけにはなりたくない。」と言う悲観的なイメージが強い。実際は認知症になってもできることはたくさんあり、不便になったことも周囲の手助けにより対応できることも多いがさせてもらえず、能力が廃用してしまうケースも多い。 近年認知症当事者が「認知症経験専門家」として自らの経験工夫を講演会などで発表され、自ら認知症であると公言し周囲からの適切な援助を受けた方が暮らしやすい、それを受け入れる社会を願うと発信されている。また当事者のピアサポートグループもたくさん活動しており、当事者が生き生きと活動され、進行抑制にもなっている。 本市も「ぐるマル条例」で様々な人々が暮らしやすい地域を作るための宣言をされているが、まだまだ認知症に対する偏見は根強いものがあり、当事者の意思が尊重され、認知症と共に暮らせる社会を目指し取り組む必要があると思われる。			市副市長 長 教育長 担当 部局長	35分	
				ア					本市において認知症の理解についての発信は認知症サポーター養成講座以外にはどのようなものがあるのか。
				イ					地域の包括支援センター職員、民生委員の方に対して、認知症の偏見をなくすための研修、情報共有は行われているのか。また市民に対してはどうか。
				ウ					認知症の当事者グループや当事者本人の発信に関して、本市はどのような取り組みをされているのか。また今後どのように取り組んでいこうとお考えか。

一般質問通告者一覧表（12月15日）

令和4年第4回東広島市議会定例会

発言順	通告者	質問要旨			答弁者	発言時間	
		項目	細目	詳細			
2	落海 直哉	1	乳幼児期における教育・保育の充実について	(1) 就学前教育・保育のあり方について 本市においても公立・私立の幼稚園・保育所があり、それぞれでよりよい幼児教育・保育環境の構築に向け対応していると思われる。現状と今後についての考えを伺う。	市副市長 教育担当部長	35分	
				ア 病児・病後児保育体制について伺う。			
				イ 幼児教育と保育のあり方について伺う。			
				ウ 幼稚園・保育所が今後どうなっていくのか伺う。			
		2	公園の現状について	(1) 公園の現状について 公園は誰もが憩い遊びを楽しめる場で、子育て世代にとって、子どもと一緒に遊びに行ける場であるとともに、防災公園という災害時の避難場所や防災機能をもつものもあるが本市において公園をどのように整備、管理しようと考えているのか伺う。			
							ア 東広島市緑の基本計画の現状について伺う。
							イ 公園遊具の設置状況や点検状況について伺う。
							ウ 公園里親制度の現状について伺う。
							エ 防災機能を有する公園の整備について伺う。
		3	自治体DXの進捗について	(1) デジタル・ガバメントの推進について 国は「世界最高水準の電子政府、電子自治体の早期実現」を掲げてから様々な戦略や計画を策定し行政手続きのオンライン化やマイナンバー制度の導入などデジタル・ガバメントの取り組みを推進してきたが、事業者も市民もデジタル化による利便性を実感するには至っていないように思われる。			
							ア 本市の情報システムの現状及び標準化の対応について伺う。

一般質問通告者一覧表（12月15日）

令和4年第4回東広島市議会定例会

発言順	通告者	質問要旨			答弁者	発言時間	
		項目	細目	詳細			
3	山下 守	1	東広島市の将来像について		市 長 副 市 長 教 育 長 担 当 部 局 長	35分	
			(1)	東広島市の将来像について 本市の将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所のデータによると、令和2年から数年間のピークののち減少に転じ令和12年で約193,000人となる事が予測され少子高齢化は年々進展していくとされている。			
			ア	人口20万人以上で中核市として事務権限を強化できるが、東広島市として現在中核市についてどのように考えているのか伺う。			
			イ	産業誘致の在り方について再度伺う。			
			ウ	維持補修費の在り方について伺う。			

一般質問通告者一覧表（12月15日）

令和4年第4回東広島市議会定例会

発言順	通告者	質問要旨			答弁者	発言時間
		項目	細目	詳細		
4	重光 秋治	1		本市の社会資本整備について	市副市長 教育長 担当部長	35分
				(1) (仮称)八本松スマートインターチェンジについて (仮称)八本松スマートインターチェンジは令和2年10月に国土交通省から事業採択を受け、早期の利用開始を目指して現在調査計画が進められている。 当該インターチェンジが完成すれば様々な分野で利便が生まれ、本市経済へも好影響をもたらすことが期待されている。当該施設の利便性を最大限生かすためには、アクセス道路の整備は不可欠であり、さらにはインターチェンジ周辺地域へ企業誘致を促すための環境整備等が必要となってくる。		
				ア 当該スマートインターチェンジの事業進捗状況について伺う。		
				イ 当該スマートインターチェンジのアクセス道路となる県道東広島向原線の改良整備について伺う。		
				ウ 当該スマートインターチェンジ周辺の産業振興について市の考えを伺う。		
		エ 救急医療体制への影響について伺う。				
		2		再犯防止推進施策について		
				(1) 東広島市再犯防止推進計画について 平成29年12月、再犯防止推進法に基づき「再犯防止推進計画」が閣議決定され、以来、政府が地方公共団体の取組みを促進する体制をとるなか、本市では令和4年3月に「東広島市再犯防止推進計画」が策定された。 民間協力者を含め、様々な関係団体とともに再犯防止活動への連携強化が期待されているところである。		
				ア 東広島市再犯防止推進計画策定とともに再犯防止に関して本市はどのような施策を進められるのか、策定前との違いも含めて見解を伺う。		
				イ 行政と保護司会の連携強化のため更生保護サポートセンターを庁舎内に設置して頂けないか、本市の見解を伺う。		

一般質問通告者一覧表（12月15日）

令和4年第4回東広島市議会定例会

発言順	通告者	質問要旨			答弁者	発言時間
		項目	細目	詳細		
5	貞岩 敬	1	第五次東広島市総合計画について	(1) 第五次東広島市総合計画の地域別計画について 先だって3年ぶりに議会報告会が実施されました。建設委員会は八本松地域と志和地域において実施しました。 その中で地域別計画に対して、参加された皆様からさまざまなご意見をお伺いしました。	市 長 副 市 長 教 育 長 担当部局長	35分
				ア 地域別計画の進捗状況をお示ください。		
				イ 地域別計画の実施にあたって、地域住民の声をどのように反映させるのかお示ください。		
				ウ 地域別計画の推進にあたって今後の予定についてご教示ください。		
		2	人権啓発について	(1) 人権啓発について 先日12月3日、くららにおいて「人権フェスティバル2022ひがしひろしま」が開催されました。 人権啓発というのは、人権フェスティバルを開催することが目標ではなく、こうしたことを契機に市民の人権意識を高めていくことが目標のはずです。		
				ア 今年度の人権講演会は、「高齢者の人権」に焦点をあてた内容でしたが、このテーマにされた背景をお教えてください。		
				イ 人権フェスティバルへ多くの市民が参加するために、どのように取り組んでおられるのか、お示ください。		
				ウ 地域において人権意識を高めるために、住民自治協議会の役員や自治会の役員、さらに民生委員・児童委員等に人権フェスティバルへの参加を呼びかけることが効果があると考えますが、見解をお聞かせください。		
		3	学校教育について	(1) 広島県公立高校入試の改革について 広島県公立高校の2023年度入学の生徒への入試制度が変わります。これまでの選抜Ⅰと選抜Ⅱが統合され、一次選抜として2月27日(月)～3月1日(水)にかけて実施されます。 学力試験のみでなく新しく「自己表現」がもうけられたことが大きな変更点です。		
				ア この変更に対して取り組んでいることがあれば、お示ください。		
				イ 義務教育の集大成である進路保障のために、本市では平素より児童生徒の学力向上に取り組んでこられました。そのうえで一校一和文化やさまざまな創作表現に取り組んでこられたことは、新しく設けられる「自己表現」に対応できるのではないかと考えますが、ご見解をお聞かせください。		